

ボーリング柱状図

調査名 都市計画道路長尾橋本線(茶山)

ボーリングNo 50302278003

事業・工事名 地質調査業務委託(その2)

シートNo

ボーリング名	No. 10		調査位置	福岡市城南区茶山5丁目地内外			北緯	33° 33' 52.58"								
発注機関	福岡市道路下水道局建設部西部道路課			調査期間	平成 27年 9月 25日 ~ 27年 12月 23日			東経	130° 21' 44.48"							
調査業者名	株式会社ジオフォーメーション 電話(092-567-7030)		主任技師	松崎 秀俊		現場代理人	綿屋 憲男 コ 鑑 定 者 松崎 秀俊		ボーリング責任者	穴井 和成						
孔口標高	H=10.76m	角	180° 上 90° 下 0°		方	北 0° 270° 西 180° 東 90° 南		地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°		使用機種	YBM製05型		ハンマー落下用具	半自動	
総掘進長	10.33m		度	0°		向	0°		エンジン	ヤンマーNFAD8型		ポンプ	YBM GP-5型			

標尺 (m)	層高 (m)	層厚 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記 事	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験	試験名および結果	試料採取	室内試験 (掘進月日)
										深 度 (m)	10cmごとの打撃回数	打撃回数 / 貫入量 (cm)	N 値	深 度 (m)				
10.06	0.70	0.70	盛土・砂質土	黒灰				Asの厚さは3cm。砂を主体とし、径10mm以下のボタやガラス片を混じる。全体に良く締め固められている。	11/10	1.15	1	1	1	3/30	3	孔内水平載荷試験 E=3112kN/m ²		
9.31	0.75	1.45	砂質粘土	暗褐		軟らかい	マサ土起源の粘土を主体とし、砂分や径5mm以下の礫を含むなど不均質な層相をなす。含水量が少なく、試料は凝固状をなす。	1.45										
			礫混じり粘土質砂	黄褐		緩い / 中ぐらい	マサ土起源の粒径不均一な砂を主体とし、粘土分を混じるほか、径2~10mmの礫を含む。 礫種は花崗岩や結晶片岩などよりなり、礫は全体に丸みを帯びることから上流山地より供給されたものと判断される。 試料は凝固状で採取され、含水量がやや少ない。 深度3.7mや4.7mには、縞状の礫層を挟むなど、堆積構造が認められる。	2.15	1	1	1	3/30	3					
								2.45										
								3.15	1	1	1	3/30	3					
								3.45										
5.96	3.35	4.80						4.15	5	5	5	15/30	15					
								4.45										
								5.15	8	10	12	30/30	30					
								5.45										
								6.15	8	13	18	39/30	39					
								6.45										
3.76	2.20	7.00	強風化花崗岩・砂質土状	淡褐灰			当地の基盤をなす花崗岩である。岩組織が認められ、石英や長石が判別できる。 試料は凝固状で採取され、やや強い指圧で壊れる程度の硬さをなす。N値20以上を示し、擁壁の支持層として、取り扱うことができる。	7.15	17	21	12/6	50/26	58					
								7.41	27	23	7	50/17	88					
								8.15										
								8.32										
								9.15	21	29	9	50/19	79					
								9.34										
0.43	3.33	10.33	風化花崗岩・軟岩	褐灰			上層よりもさらに、岩組織が鮮明になり、石英、長石のほか雲母が判別できる。 試料は半固結土状で採取され、強い指圧でないと壊れないほどの硬さをなす。 深度8.3m付近は、厚さ3cm程度の石英脈を挟む。 N値はすべて50以上を示し、施工上は軟岩に区分される。	10.15	22	28	8	50/18	83					
								10.33										

- ・本資料は、工事等により現況と整合しない場合があり、現在の位置関係や地質状況などを特定するものではありません。
- ・本資料は、参考データとして利用し、現在の地質状況は、再度ボーリングを行う等して確認をお願いします。